

西大和つうしん

2018年9月号

No.435



尾瀬ヶ原の木道の彼方に前日登った燧ヶ岳を望む 《2018. 7. 20》

奈良県勤労者山岳連盟

西大和山の会

西大和つうしん

第435号 (2018年9月号)

【目次】

9月度山行計画／9月度の夏山自主山行予定.....	2
9・10月度カレンダー.....	3
山行・行事等参加メモ.....	4
山行報告	
・自主山行 《7/16-22》 尾瀬の山 会津駒ヶ岳・燧ヶ岳・至仏山（島崎・野路・中）.....	5
・自主山行 《8/5》 大峰山脈 大普賢岳～七曜岳周回（杉森）.....	8
・自主山行 《8/5-8》 北アルプス 西鎌尾根～槍ヶ岳～南岳（野路・中・永井）.....	9
・例会山行 《8/19》 武田尾 武庫川溪谷・廃線跡・大峰山（中）.....	11

9 月 度 山 行 計 画

～奈良県勤労者山岳連盟救助隊主催～
～第 11 回広域搜索訓練～

例会山行2 台高山脈 《木梶山》 1,230m

【日 程】9月2日(日) (L林)

【集 合】上牧役場前駐車場 7:00⇒(車)⇒木梶林道に駐車～(20)～キワラ滝駐車場 9:30 集合

【搜索範囲】木梶川周辺のハッピーノタワから木梶山までの稜線と谷

(詳細は 8 月 31 日遭難対策会議を行って搜索方針の決定後に発表)

※現地キワラ滝駐車場本部で搜索コース・グループ分けの指示があります。

～龍門山地の主峰、美しい山容をした龍門岳へ～

例会山行1 龍門山地 《龍門岳》 904m

【日 程】9月9日(日) (L勝尾)

【集 合】上牧役場前駐車場 7:00

【コース】簡易水道施設駐車場～(10)～龍門滝～(30)～林道終点～(40)～二股～(50)～龍門岳～
(30)～三津峠～(35)～龍門岳～(30)～二股～(25)～林道終点～(10)～駐車場

※ 歩行時間：4 時間 20 分

例会山行2 テント泊山行

【日 程】9月22日(土)～23日(日) (L杉森)

当初案(西穂高岳)

22日(土)：王寺付近 6:00 発⇒(車)⇒新穂高温泉 12:00 着⇒(ロープウェイ)⇒西穂高口駅
西穂高口～(1h30)～西穂山荘 2,367m (テント泊)

23日(日)：西穂山荘～(1h30)～独標～(1h30)～西穂高岳～(1h)～独標～(1h)～西穂山荘～(1h)
～西穂高口⇒(ロープウェイ)⇒新穂高温泉(入浴)⇒(車)⇒王寺 (22:00 頃)

※ロープウェイを利用しますので、テント場まで荷物を担ぎ上げるのは 1 時間半の行程です
(標高差 229m)。2 日目はテントに荷物を置いて空身で登ります (3 時間：標高差 524m)。

代替案(蒜山)

22日(土)：王寺付近 6:00 発⇒(車)⇒塩釜キャンプ場 10:00 着(テント設営)昼食

塩釜キャンプ場 12:00～(5)塩釜登山口～(1h15)～中蒜山 1123m～(1h)～塩釜登山口～
(5)～塩釜キャンプ場 (テント泊) 【歩行時間：2h20】

23日(日)：塩釜キャンプ場 7:00⇒(車)⇒百合原登山口～(1h15)～上蒜山 1202m～(40)～中蒜山～
(1h)～塩釜登山口～(5)～塩釜キャンプ場 11:00 (テント撤収) 【歩行時間：3h】

塩釜キャンプ場 13:00⇒(車)

(途中入浴) ⇒王寺 18:00 頃

※キャンプ場まで車でいきますので、1 日目、2 日目とも、必要なものだけで登山します。

★9月の秋山自主山行予定

- ・9月27日(木)～10月4日(木)：L 島崎
羅臼岳・知床五湖・十勝岳 (北海道の山)

★暑気払い予定

- ・9月16日(日)

西大和山の会 カレンダー

9月			10月		
1	土		1	月	
2	日	例会山行2(県連・広域搜索訓練)	2	火	県連理事会
3	月		3	水	
4	火	県連理事会	4	木	
5	水		5	金	
6	木		6	土	
7	金		7	日	
8	土		8	月	
9	日	例会山行1《龍門岳》(勝尾)	9	火	
10	月		10	水	
11	火		11	木	
12	水		12	金	
13	木		13	土	
14	金		14	日	例会山行1《大台ヶ原》(中)
15	土		15	月	
16	日	暑気払い	16	火	
17	月		17	水	
18	火		18	木	
19	水	西大和つうしん原稿締切	19	金	
20	木		20	土	
21	金		21	日	
22	土	例会山行2・テント泊山行(杉森)	22	月	
23	日		23	火	
24	月		24	水	西大和つうしん原稿締切
25	火		25	木	
26	水	9月度室内例会	26	金	
27	木		27	土	
28	金		28	日	例会山行2・県連交流山行《柳生街道・滝坂の道》(野路)
29	土		29	月	
30	日		30	火	
			31	水	10月度室内例会

山行・行事等参加メモ

No	氏名 (入会順)	8/29	9/2	9/9	9/16	9/22-23		
		室内 例会	例会 2 広域捜 索訓練	例会 1 龍門岳	暑気 払い	例会 2 テント泊 山行		
1	(窪田)							
2	都築							
3	藤井							
4	(石田)							
5	田中悦							
6	島崎							
7	田中初							
8	村田							
9	林		LO					
10	勝尾			LO				
11	藤本							
12	杉村							
13	高橋							
14	玉越							
15	橋本							
16	亀高							
17	船江							
18	野路							
19	中							
20	杉森					LO		
21	上田							
22	永井							
23	川田							
24	高岡							
25	岩田							
26								
27								
	合計							
	緊急 連絡先							

L:リーダー、○:参加、◎:車

※室内例会時点での参加予定であり、その後変更されることがあります。

山行報告

自主山行 尾瀬 会津駒ヶ岳・燧ヶ岳・尾瀬ヶ原・至仏山

【日 程】7月16日(月)～22日(日)

【参加者】L野路・SL島崎・中(計3名)

【交通】京都八条口 22:08⇒(バス)⇒6:01 栃木駅 6:38 ⇒(東武日光線・日光行)⇒7:26 下今市 7:27
⇒(東武鬼怒川線会津田島行)⇒8:45 会津高原尾瀬口 9:50⇒(会津バス)⇒10:58 檜枝岐村駒ヶ岳登山口

7月17日(火)～18日 会津駒ヶ岳(2,132.6m) 晴れ

・7月17日(火)

【J-タイム】会津駒ヶ岳登山口(11:40)～滝沢登山口(12:10)～第一ベンチ(13:40)～第二ベンチ(15:10/25)
～駒の小屋(15:45)〔泊〕

20年前に尾瀬を訪ねていたが、燧ヶ岳にも登れず至仏山も小至仏山までで、とても残念な山行でした。いつかまた行ってみたい!! と思い続けて・・・「遥かなる尾瀬」を求め企画しました。夜行バスと電車、またバスと乗り継いで・・・本当に遠い!! と思いました。「遥かなる尾瀬」です。

駒ヶ岳登山口について昼食を済ませ、登り始めたのは昼前で、一番暑い時間からの登り。第一ベンチまでは樹林帯の中の急登で、夜行バスの疲れ?とまた温度の高い時間帯の登りという事もあり、とても堪えました。第二ベンチまでくると視界も広がり、駒の小屋や駒ヶ岳、中門岳の稜線も見え・・・大草原の丘に続く長い木道、その先に小さな小屋・・・ここから見える草原の中の景色はヨーロッパ・・・まさにハイジの中のような景色。また沢山の花々が咲いている。薄ピンクの石楠花、ワタスゲ・・・今回の山行で一番見たかったワタスゲ。駒の小屋は「予約制」で予約のない人は泊まれないそうです。



・7月18日(水)

【J-タイム】駒の小屋(5:30)～会津駒ヶ岳(5:55)～中門岳(6:30/50)～駒の小屋(7:45/8:10)～大津岐峠(9:35/55)～電発避難小屋(11:17/40)～大杉岳(12:45)～御池ロッジ(13:50)

翌朝ガスが出ていたので30分遅らせ出発。駒ヶ岳まではガスの中だったが、それを過ぎると徐々にガスが引いて行き、太陽の光が池塘に差し込む情景はとても神秘的で幻想的な世界。中門岳には山頂はなく広大な湿原でこれが山の上??とは思えない風景。鏡のような美しい中門大池の水面、霧が晴れて、来るときには見えなかった山々の稜線、緩やかな変化のある木道が何処までも続く草原、沢山の高山植物が咲き乱れる草原、幾つもの池塘。

地上では見る事の出来ない「天上の楽園」・・・これに変わる言葉が見つからない!! また、ここは高山植物の宝庫。

駒の小屋からは見晴らしの良いゆるやかな富士見林道を行く。大津岐峠までくると「燧ヶ岳」がとても大きくなり、男体山や白根山、日光の山々が美しい稜線を描いています。そんな稜線歩きが電発避難小屋まで続き、それを過ぎると樹林帯の中に入り、大杉岳を経て御池ロッジまでは、また緩やかな下り。



ゆっくりとした歩きで、素晴らしい景色の所ではたっぷりと時を過ごし、また道迷いもなく 14 時前には御池ロッジに無事到着。
(記：島崎隆)

7月19日(木) 燧ヶ岳(2,356m) 晴れ

【コ-ｽﾀｲﾙ】 御池ロッジ(5:15)～広沢田代(6:15/45)～熊沢田代(7:35/8:00)～俎崙(9:35/10:05)～柴安崙(10:30/45)～俎崙(11:05/20)～ミノブチ岳(11:45)～長英新道分岐(13:45)～沼田街道分岐(14:00/30)～尾瀬沼ヒュッテ(14:45)

御池ロッジの駐車場奥からが登山道の入り口になる。オオシラビソの樹林帯の中、岩場、ガレ場、階段の急登を1時間ほど登ると広沢田代に着く。今までの急登とは一変して、ゆるやかな木道が続き湿原が現れる。息が切れるほどの急登の後の湿原は気持ちを癒してくれた。湿原は広大で沢山の高山植物が咲き誇っている。キンコウカ、ワタスゲ、コバギボウシ等々・・・たっぷりと時間をかけて雄大な湿原を散策。

また、オオシラビソの樹林帯の中、岩場を40～50分急登すると熊沢田代に到着。ここもまた広大な湿原。俎崙の頂上が見え、湿原を包み込むようにどっしりとした山容。沢山の池塘と高山植物の宝庫・・・ここが2000mの高さとは思えない・・・ここもまた「天上の楽園」と言う言葉のほか見つからない・・・時も忘れその景色の中に入ると「頂上まで行かなくてもここで良いかな・・・もっとこの世界にいたい!!」と思ってしまう。

長い時間浸っていたが、再びゆっくりと木道を進むと階段になり、その辺りから白い「ワタスゲ」が群生していた。風に揺れ今にも飛んでいきそうな、ふあふあの綿毛・・・白い妖精のよう・・・

ガレ場やゴロゴロした岩場のある沢沿いを登りきると、俎崙が現れる。頂上は祠があり、尾瀬ヶ原や尾瀬沼が一望でき、はるかに連なる山並みや、昨日駒ヶ岳から歩いてきた稜線も見え、360°の展望が楽しめる。

燧ヶ岳は5つのピークからなっていて、ピークを踏めるのはそのうちの3つ。また双耳峰の岩場で、俎崙から一旦下り、柴安崙への登りはとても堪える。また俎崙に戻り3つ目のピーク、ミノブチ岳を経て緩やかな下りの長英新道に行く。下り易いコースだが、1合目から登山口の長い事・・・まだかまだかと思うほど長く感じた。登山口から尾瀬沼沿いの木道を歩き沼田街道分岐の休憩所で長い時間

の休憩??と言うよりも、時を過ごした。燧ヶ岳が一望でき、尾瀬沼を一望できる絶景。

20年前に尾瀬ヶ原の方を訪れたときは、一面黄色い山吹色の「ニッコウキスゲ」に感動し・・・今回もそれを期待していましたが、今年は花が少し早く咲いたこともありますが、当時の面影はなく、まばらにしか咲いていず、残念でした。鹿の被害にあい、年々減少していった今の姿になったよう・・・とても残念で、前のように復活してくれたら良いのですが、寂しい限りです。

(記：野路政子)



7月20日(金) 尾瀬沼・尾瀬ヶ原 晴れ

【J-ｽﾀｲﾙ】 尾瀬沼ヒュッテ(6:45)～沼尻休憩所(8:30/50)～原の小屋(10:30/11:15)～東電分岐(11:40)～東電小屋(12:10/35)～ヨッピー吊り橋(13:00)～竜宮十字路(13:30)～竜宮小屋(13:35)～牛首分岐(14:45)～至仏山荘(15:40)

木々の間から沼尻池を眺められる板道を歩き始め爽やかさを楽しみながら沼尻休憩所に着く。焼けた小屋は木の香りがして真新しく建て直されていました。前には船着き場があり小屋の管理人の方に聞くと、対岸から必要な物資を運ぶそうです。トイレを維持するには1タンク1000人で満タンになったら処分はヘリで15万円だったのが25万円に値上がりして7万円以上の赤字だそうです。大切な自然を守るための苦勞話に花を咲かせました。小屋の売店では冷たく冷やしたイチゴクレープを食べられ、久しぶりの生ものに感動しました。尾瀬ヶ原に出ると昨日に聞いた通り、鹿の食害でポツリポツリと咲くニッコウキスゲでした。満開の時期なのに期待していた観光写真のような風景ではなくなっていました。小さな池には白くて可愛いヒツジグサがたくさん咲いていました。小屋に着く度にかき氷やコーヒーで一休みしながら、燧ヶ岳、明日に登る至仏山をバックに湿地帯の花や池の写真を撮りながらゆっくりとしたペースでハイキングを楽しみました。



7月21日(土) 至仏山(2,228m) 晴れ

【J-ｽﾀｲﾙ】 至仏山荘(5:20)～高天が原(8:00)～至仏山頂上(8:20/50)～小至仏山(9:40/50)～オヤマ沢田代(10:12)～鳩待峠(11:30)



山荘を出発し、しばらくは尾瀬ヶ原との別れを惜しみながら板道を歩く。至仏山山道に入ると、地図上では高天が原まで同じ幅の等高線でほぼ真っすぐの直登であることは分かっていましたが約800mの上りは緩みがなくかなりきついものでした。はじめは振り返ると尾瀬ヶ原は雲海の下でしたが雲が切れ始めると燧ヶ岳と尾瀬ヶ原が一望でき、振り返るたびに素晴らしい眺望でしんどさを忘れさせてくれました。限界樹林帯を過ぎると岩場になる。足元は蛇紋岩という軟らか

かい岩質で人が掴む、踏むなどすることで、滑りやすいツルツルの表面になっているので気が抜けなく、木の階段の上りのほうがホッとしました。日の光を受けてピカピカに光る岩場を掴みながら急登でしたが、ようやく緩やかな高天が原に着く。あたりはタカネナデシコの群生がありしばし癒され写真タイムをとる。20分ほどで頂上にそこは広い岩場なっています。このコースは登り専用となっていますが納得でした。下りも滑りやすい蛇紋岩がしばらく続き注意が必要でしたが傾斜はやや緩やかです。岩場が過ぎるとオヤマ沢田代の湿地帯になりホッと一息、岩場が切れ緩やかな下山路になり鳩待峠に着きました。(記：中昌子)



自主山行 大峰山脈 大普賢岳 1,779.9m～七曜岳 1,584m

【日 程】8月5日(日) 晴れ

【参加者】L 亀高・SL 杉森・船江(3名)

【J-タイム】和佐又ヒュッテ(7:41)～和佐又の科尔(8:00)～笹の窟(8:44)～石ノ鼻(9:15)～大普賢岳(10:16)～弥勒岳(10:54)～国見岳(11:20)～稚児泊(11:35/12:10 昼食)～七曜岳(12:40)～奥駆分岐(12:50)～無双洞(14:12)～底無井戸(15:14)～笹の窟分岐(15:46)～和佐又の科尔(16:17)～和佐又ヒュッテ(16:30)

夏山アルプス山行(燕～常念～蝶)参加者での最終訓練。快晴で絶好の登山日和。シダンの窟からハシゴが現れ、笹の窟を過ぎるとクサリ、ハシゴが多くなる。日本岳の科尔で尾根筋へ上がると展望が開けた。石ノ鼻の岩場に立てば、東に大台ヶ原、南に大峰山脈の山々が雄大な姿を見せた。コースタイムより少し速いペースで大普賢岳に到着。赤トンボが飛び交っており、どこことなく秋の気配を感じさせる。今年1月に雪のため引き返した大日山、稲村ヶ岳が近くに見える。

大峰奥駆道を気持ち良く歩く。水太岨から見る水太谷の景観に恐怖と感嘆の声を上げる。国見岳を過ぎ、稚児泊で昼食・休憩。七曜岳直下のクサリ場を上がると、大普賢岳、小普賢岳、

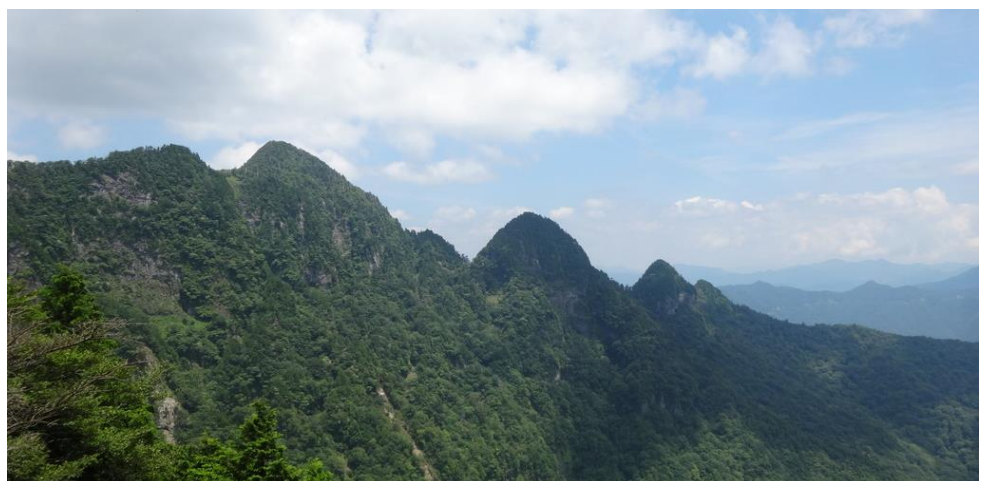
日本岳が迫力ある姿を見せた。七曜岳付近は全行程のまだ半分である。奥駆

道分岐から木の根道を下る。尾根下りで、大きく左折する所があるので道迷いに注意する必要あり。激下りになり、足の軽い痙攣や、体中虻に刺されるなど悪戦苦闘の連続。木の階段でボルトが前に長く突き出ており、怪我する恐れがある所が数ヶ所あった。ようやく無双洞に着く。洞からソ

ロソロと大勢の人が現れたのにはびっくりした。人気のケイビングがこんな所でも見られるとは思わなかった。長い下りから、いよいよ登り返しの急登だ。クサリ場が続き、疲労した足に心底堪える。底無井戸に着くも、疲れて井戸を探す気力も起こらない。途中から、若い人を追い越したり、越されたりした。相当疲れている様子だったが、若いから回復は速いと思う。

待ち望んだ和佐又の科尔に着く。誰もいなくなったキャンプ場を通り遂に和佐又ヒュッテに到着。休憩も含めて約9時間の長丁場、水分補給は3ℓを超えた。疲れ果てたが、本番に向けていい訓練山行になった。

(記：杉森英二)



自主山行 北アルプス 西鎌尾根(槍ヶ岳 3179.7m～南岳 3033m)

【日 程】8月5日(日)～8日(水)

【参加者】L 島崎・SL 野路・中・永井(計4名)

8月5日(日) 晴れ

【J-タイム】佐味田川駅(4:00)⇒新穂高温泉駐車場(8:40/9:10)～お助け風(9:45)～笠新道分岐(10:20)～わさび平小屋(10:40)～小池新道分岐(11:10)～秩父沢(12:25)～チボ岩(12:40)～鏡平池(15:30)～鏡平山荘(15:45)

北アルプスの登山口は上高地からが一番多く、二番目に多いのが新穂高温泉からと言われている。快晴の中、新穂高温泉から左俣林道を進む。道幅は広くて緩やかな道を30分ほど行くと「お助け風」、岩の隙間から冷たい風が吹いて、まさに天然のクーラーが熱い体を癒してくれる。

笠新道を過ぎ、わさび平小屋を過ぎて、小池新道へ入ると、石畳みを敷いたように整備された道になる。小池新道で早めの昼食タイムをとり歩き出す。このころから睡眠不足の私はなかなか足が進まず・・・秩父沢に入ると岩場の急登になり、午後から



の暑い日差しも増してとても堪えた。鏡平池に着いた時は本当にホットした。明日もまた快晴を約束してくれているような夕暮れ・・・期待しながら小屋に戻る。(記：野路政子)

の暑い日差しも増してとても堪えた。鏡平池に着いた時は本当にホットした。

「鏡平池」は名の通り、水面に槍ヶ岳、キレットから穂高連峰を見事に映しだしている。何度か訪れているが、こんなに美しく映っているのは初めてで、とても感動した。

夕食後、夕焼けで真っ赤に染まる槍ヶ岳を見たくて、18時45分の日没よりも1時間も早く池に行ったが、池の周りは皆同じ考えの人で混雑していた。かなり赤く染まってきたが、最後の最後に私達の後ろに雲が出て、その雲の影が「槍ヶ岳」の上に落ち、期待していたような「真っ赤な槍ヶ岳」を見ることは出来ず少し残念だった。それで

8月6日(月) 鏡平小屋～槍ヶ岳 晴れ

【J-タイム】鏡平小屋(5:10)～双六小屋(7:30/40)～縦沢岳(8:25)～千丈沢乗越(12:00)～槍ヶ岳山荘(13:45/14:30)～槍ヶ岳(15:05)～槍ヶ岳山荘(16:45)

槍ヶ岳を眺めながら鏡平小屋を出発。1時間あまりの急登が続き、弓折乗越を越えると緩やかな山道で雷鳥に出会うラッキーもありました。双六小屋を越えると、西鎌尾根越しから見える槍ヶ岳が迫力満点でした。再び急登になり、1名がバテ気味になったのでこまめに休憩をとりながら千丈乗越に向かう稜線からは、北鎌尾根の稜線がくっきり





と見える。どんどん近づく槍と、北鎌尾根の険しい稜線を眺めながらガレ場、岩場を進む。槍ヶ岳が近づくにつれて登攀気味になり疲れもピークになったところで槍ヶ岳山荘に着く。小屋の手続き、荷物を部屋にあげてから1名は小屋で休み3名で槍穂頂上に出発しました。少しすき始めた上りのコースに入ると鎖場、梯子を超えるほぼ登攀である。頂上では標識の所での写真撮影は順番待ちで、本当に人気の高い山です。下りコースでは一部上りと交差している所があり、しばし交差を待ち無事に今日の予定を終了しました。

(記：中昌子)

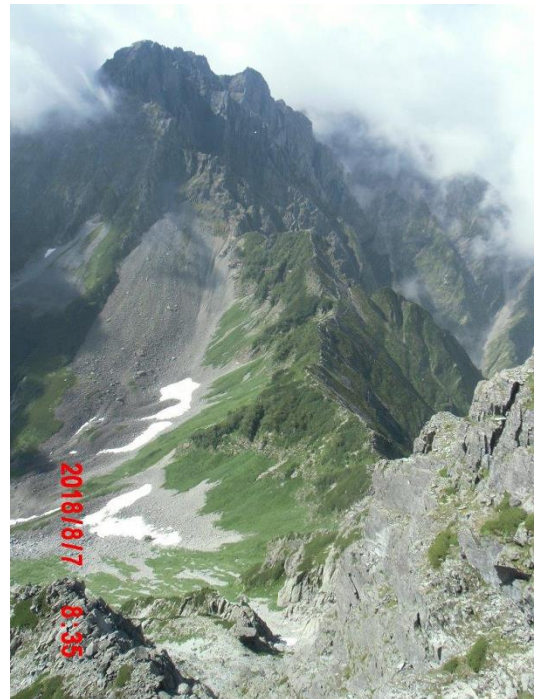
8月7日(火) 槍ヶ岳～南岳 霧のち晴れ

【コースタイム】 槍ヶ岳山荘(5:35)～大喰岳(6:16)～中岳(6:45)～南岳(8:10)～南岳小屋(8:30/52)～槍平小屋(11:58/12:30)～白出沢(14:38)～新穂高温泉駐車場(16:22)

霧の中の槍ヶ岳を背にして雨天予想の中を出発。大喰岳～中岳～南岳とガスの中を縦走する。心配していた雨は降らず、南岳に着く頃は逆に青空が見え出した。南岳から見事な大キレットの姿を見ることができた。後ろに外国人パーティが続いて来ていたが、見る間にガスがかかってきて大キレットは姿を消してしまった。雲の動きは目まぐるしく変わる。

南岳新道では、真下に槍平小屋を見下ろしながら、岩だらけの尾根の急坂を、スリルを味わいながら下った。槍平小屋に着いて軽い昼食と水の補給をした。かなり下ってきた感があるが、今日の行程はここからまだ4時間半かかる。

休憩を終え、蒲田川右俣谷に沿って大きなゴロゴロ岩のなかを歩く。白出沢分岐のところに湧水があったので水分補給をする。ここからは林道になり歩きやすくなるが、途中で道を間違い遠回りすることになった。三日間の疲労もピークに達している。



初めてのアルプス、初めての山小屋泊のなかで、通常の山行では経験できない世界があった。鏡平から見渡す槍ヶ岳～穂高の稜線の眺め、湖面に映る静かで神秘的な山々、霧が晴れて見える大パノラマ……。それとまさかのスタミナ切れ、幾度かの転倒もあった。ちょっぴりほろ苦いアルプスデビューであったが、十分すぎる山の魅力と隣り合わせの危険があることを知った貴重な体験であった。

(記：永井章夫)

例会山行1 武田尾・宝塚 武庫川溪谷・廃線跡・大峰山

【日 程】8月19日(日) 晴れ

【参加者】L中・SL橋本・田中悦・田中初・勝尾・永井・岩田(7名)

【J-タイム】西宮名塩(9:35)～峡谷道入口(10:05)～親水広場手前(11:35/12:10 昼食)～親水広場(12:19)～どんぐり道～東屋(12:59)～大峰山(14:20)～さくら道～東屋(15:10)～親水広場・桜の園入口(15:40)～武田尾駅(16:15)

名塩駅から溪谷道入口への道はわかりにくく、通行人の方に聞き、歩道橋から駅ビルの横の階段を上り、駅にあったパンフレットの写真付きの案内を見ながら、30分ぐらいで道に入りました。

枕木を踏んで、青空と川の流れを眺めながらの廃線跡の道は、木陰でトンネルの中が本当に涼しく、寒いと感じる人もいるくらい暑さも凌げて快適な道でした。長いトンネルは700mもあり、出口から見える丸く切り抜かれた緑の風景の美しさは感動的でした。迫力満点の鉄橋を渡り、川をはさんで見える岩山・奇岩を楽しみ



ながらの楽な水平移動でした。最後の552.3mの大峰山の登りは、少し回り道をしてでも緩やかな方を選んで、どんぐり道を登ることにしましたが、あてにしていたショートカットの道は崩れていて長い回り道をしなければならなくなり、予定を30分超えて東屋に到着。

その後は急登で、この山行では一番きつく感じました。緩い行程の中での急な登りで、1名がバテぎみになりましたが、全員でピークを踏むことができました。山頂は木に囲まれており、残念ながら展望はありませんでした。東屋はさくら道を下り、往路よりずいぶん短くてすみました。あとは廃線道の短いトンネルを3回抜けると15分ほどで武田尾駅に着きました。

○参考資料・反省

- ・トイレは溪谷道の入り口に簡易トイレが2カ所、武田尾付近出口に男女別々のものあり。
- ・名塩駅から廃線・溪谷道入口がわかりにくい。(駅に写真付きパンフレットあり)
- ・各地の山々が台風、大雨で荒れており、地図だけの確認では不十分でした。
- ・検索した山行記録でもリハビリ山行との記述もありゆっくりとした山行になりました。

(記 中昌子)



西大和つうしん

第 434 号 (2018 年 9 月号)

2018 年 8 月 29 日発行

発行責任者 島崎 隆

編集責任者 亀高 茂

奈良県勤労者山岳連盟 西大和山の会
〒636-0003 奈良県北葛城郡王寺町久度 1-9-32

窪田友男方

TEL・FAX 0745-72-2876

[http : //www.nishiyamatoyama.com/](http://www.nishiyamatoyama.com/)